

法学概論

Introduction to Legal Studies

YOKOYAMA Makio

横山 真規雄

科目ナンバリング：DIB-2-441-12

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目



■授業の目的及び到達目標

本講義は、大学で初めて本格的に学ぶ「法学」の基礎学習を通し、社会にあって発生する様々な法的トラブルに対処する能力を身に付けるだけでなく、国際社会でも通用する知識を多角的に学ぶことを目的とします。拓殖大学が設置する様々な法律科目（国際法、国際取引法、民法、憲法等）の履修に向けた基礎学力を養うと共に、公務員試験等にも十分役立つ講義を行います。「卒業認定・学位授与の方針」が掲げる「専門的知識」修得すると共に、「コミュニケーション力」、「実践力」を養い、社会的に「有為な人材」としての成長を目指します。

■授業計画

- 1 今、この時期に「法律」を学ぶ意義を考える
 - 1.法律を学ぶ時期にある「成人」 2.「法」とは何か 3.「法」は何を求めているのか 4.今、何故、「法」を勉強する必要があるのか 5.成人とは何か
- 2 未成年者・成年者の法的地位を確認する
 - 1.未成年者の優遇措置 具体的な「おまけ」の内容 2.ラーメンの売買契約と親権者の同意 3.死刑、少年法、刑務所 4.罪とは何か、何を償うか
- 3 法の種類と日本法の特徴について考える
 - 1.法律・判例・条約とは何か 2.政令・省令・内閣府令とは何か 3.制定者の違いと法的パワーの違い 4.法律の種類と権威 5.法律の作られる具体的流れ
- 4 日本法の歴史と特徴を考える
 - 1.日本法を学ぶ意義 2.歴史的展開からの位置づけ 3.明治以降の近代化と法典整備 4.国際人として、日本法を学習する意義 5.日本法の学習方法
- 5 成文法、判例法と第1回小テスト
 - 1.第1回小テスト実施 2.裁判所の構造 3.成文法と判例（殺人罪と傷害致死罪、交通事故など） 4.判例法の法的権威（アメリカ法体系との比較）
- 6 判例法と条理の意味とフィードバック
 - 1.第1回小テスト結果を踏まえたフィードバック 2.傷害事件・時効 3.成文法も判例もない場合の「裁判拒否」 4.学説・条理とは何か 5.日本人の常識
- 7 婚約とは何か：条理の世界の法
 - 1.判例なく、条理学説も対立する事例としての「婚約」 2.婚約とは何か；将来の結婚を約束する合意 法的地位の形成 3.判例学説：時効制度との関係
- 8 婚姻を巡る法律問題を考える
 - 1.家族法を支える「両性の平等」 2.同和差別 幼児婚 焼かれる花嫁 3.婚姻の実質的・形式的成立要件 4.婚姻の効果 同姓・別姓 氏名とは何か
- 9 婚姻から見る「憲法」の意義
 - 1.憲法とは何か 2.日本社会における憲法の位置づけ 3.行政事件との関連性 4.憲法に何を求めるかについて 5.カタログ・メニューの意味
- 10 子供の権利と第2回小テスト実施
 - 1.第2回小テスト実施、理解度確認 2.子供は誰のものか 3.社会全体としての保護 4.児童虐待と対策 5.諸外国の状況 6.児童保護のためのシステム
- 11 遺言書の法律問題とフィードバック
 - 1.第2回小テストを踏まえたフィードバック 2.「いごん」と「ゆいごん」 3.遺言書の作成 4.公証人制度 利用価値 5.諸外国の権限確認制度
- 12 国籍と戸籍制度の意義を検討する
 - 1.日本人とは誰か 国籍の果たす役割 2.国籍法とグローバル社会における重国籍者の増加 3.戸籍事項証明書の入手方法・読み方 4.諸外国の証明書と戸籍の果たした役割と課題について
- 13 学期試験及びフィードバックの解説
 - 1.学期試験の実施 2.学期試験のフィードバックとしての解説 3.法を学ぶにつけるための基礎的知識 4.公務員の仕事、政治家の仕事を考える

■授業の方法

時間中に講義内容を確実に身に付けるため六法を携帯し、黒板の記述と条文を確認しながら授業を進めます。受講生には、光輝ある拓殖大学の学生として、常に真摯な受講態度を求めると共に、緊張感を保つため、適宜教壇から質問を投げ掛け積極的発言を求めます。

■予習・復習

予習すべき箇所は、事前に詳細に指示しますが、本講義では復習を重視します。講義で習得した知識を、今一度自宅で復習し、疑問に感じた点を、次回冒頭の「質問時間」で解消して、確実な知識として定着させます。良好な質問には加算評価します。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

出席点は評価対象にせず、レポート、質問、授業中の応答態度（10%）に加えて、2回実施する小テスト（10%）と期末試験の成績（80%）を総合的に勘案し、学習内容がどの程度定着しているかを判断し評価します。

■教科書・参考書

- 1, 末川博編集『法学入門（第6版補訂版）』（有斐閣 1500円）
- 2, 森田 宏樹（編集）、小泉 直樹（編集）、石川 健治（編集）『ポケット六法 令和8年版』（有斐閣 2530円）
- 3, 初学者に対する配慮から、頁数を読み上げますので、必ず上記指定の書物を持参して下さい。持参しない場合には授業参加を認めません。
- 4, 歴史的事実を使った説明を多く行いますが、基礎知識習得にはインターネットの活用が有効です。

■関連する科目

「日本国憲法」を併せて履修すると知識強化が期待できます。